

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2015. 10. 8◆◆◆

圏域を超えた災害対応の重要性

7月31日付けで四国地方整備局次長兼総務部長を拝命いたしました齋藤です。四国への赴任は初めてで、地方整備局での仕事も久しぶりで、当初は少々戸惑うことも多かったのですが、何とか乗り切ってきたところです。

四国に関していえば、この夏は昨年度に比べると今のところ台風の襲来も少なく、管内での災害対応に追われる頻度も比較的少なかったようです。ただ、四国圏外にまで広げれば、先般鬼怒川流域において堤防決壊・浸水という大災害が発生しました。四国地方整備局からも緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を関東地方整備局管内へ派遣し、浸水地域における排水作業等災害対応支援を行ったところです。

日本列島はどのエリアもいわば自然災害多発地域であり、したがってすべての圏域において災害発生に対応できる態勢を整えておかなければなりません。しかしながら、その被害が甚大であれば被災地を含む圏域のみでの迅速な対応が難しくなることもあります。その際に重要なのは、圏域を超えて連携し災害対応に当たる態勢を築くことであると考えます。今回の鬼怒川氾濫においても、ほぼ同時期に圏域内で深刻な浸水被害が発生した東北を除き、各圏域の地方整備局等から災害対応支援がなされました。

地球温暖化等を背景としてゲリラ豪雨等異常気象の増加などがいわれる中で、圏域を超えた災害対応はますます重要となるでしょう。他圏域への災害対応支援は、支援要請が来てから対応を考えるのでは間に合わないものであって、日頃より他圏域において大きな災害が起きた場合における対応のあり方をシステム化しておく必要があります。地方整備局レベルにおいては、このあたりの備えはかなり進んでいると思いますが、より円滑かつ効率的なものとするため不断の見直しを図るとともに、地方公共団体レベルにおいても、圏域を超えた災害対応に向けた取り組みを進める必要があると考えます。そして、このような取り組みは国全体としてのリスクマネジメント体制の構築につながり、また、より幅広い圏域間連携の基礎ともなり得るでしょう。

私は四国圏広域地方計画推進室長という立場であることもあって、四国圏の将来を考える上での重要な要素の一つである防災のあり方の中に、圏域を超えた災害対応も取り込んでゆきたいと考える次第です。

四国地方整備局次長兼総務部長
齋藤 哲郎

■東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業を起工

【松山港湾・空港整備事務所】

9月6日（日）『東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業』の起工式を、愛媛県と四国地方整備局が主催となり実施しました。

本事業は、今後予想されるフェリー貨物の増加や船舶の大型化に向けて、物流機能の効率化を図るとともに、大規模地震に備えて耐震機能を強化することを目的として、平成26年度より測量等の諸準備を進め、この度、工事着手の運びとなりました。

当日は、地元選出国會議員をはじめ、地元関係者や、行政関係者ら約120名が出席し、工事の安全施工や地域の発展を祈念しました。

物流ネットワークのさらなる充実による「地域経済の活性化」、耐震強化岸壁による「安全安心な地域づくり」を目指して、今後も地域に密着した行政を展開して参ります。

■事務所だより

【高松港湾・空港整備事務所】

○高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業

当事務所では、船舶の大型化に対応すると同時に、大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送に対応するため、平成17年度から高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業を実施しており、平成23年度に岸壁（水深12m）（耐震）、平成26年度に泊地（水深12m）が完成しました。今年度は昨年度に引き続き航路（水深12m）の浚渫工事を実施しており、土運船に積み込まれた浚渫土砂は香川県の朝日地区埋立事業に活用しています。

○備讃瀬戸航路保全事業

備讃瀬戸航路は、播磨灘と燧灘を結ぶ最狭部約3kmの狭水道にあり、瀬戸内海を東西に結ぶ唯一の幹線航路として、1日に約700隻もの船が行き交います。当海域は大小多数の島しょ・暗礁の点在によって、複雑で強い潮流が発生し、各所で埋没現象が生じて航路としての機能に支障をきたす状態が生じており、このような状況に対処する為に、平成21年12月より備讃瀬戸航路全域を「開発保全航路」として拡大指定し、航路の維持管理や船舶の大型化に対応した浚渫を実施しています。

○海洋環境整備事業

当事務所では昭和49年度から、備讃瀬戸全域及び備後灘等海域を担務海域として海洋環境整備事業を行っています。平成23年からは3代目となる海面清掃兼油回収船「美讃」が、坂出港を拠点として浮遊ゴミ・油の回収作業を実施しており、年間約1,000m3の浮遊ゴミを回収しています。中には家電製品や大きな流木等が含まれていることもあり、行き来する船の安全確保に向けたゴミの回収作業や、また、船や工場等の事故により流出した油を回収する機能も備えています。

○一般公開や出前講座による広報活動

7月20日（祝）、海の日イベントの一環として毎年行っている海面清掃船兼油回収船「美讃」の一般公開を、高松港内のサンポート地区にて開催しました。当日は、高松市内の気温が30度を越える真夏日の中、普段は見る機会が少ない海面清掃船の船内見学とあって多数の方に見学を訪れて頂き、一般公開中は300名を越える来場者で賑わいました。今回も船員の制服による撮影会は好評で、制服を着ての撮影や家族で港クイズに参加頂き、港の役割や「美讃」の活動内容等について理解を深めて頂くことが出来ました。この他、出前講座も実施しています。

■国営讃岐まんのう公園「コスモスフェスタ」について（先月号からの再掲）

【香川河川国道事務所 公園課】

国営讃岐まんのう公園では、毎年恒例の『コスモスフェスタ』を9月12日（土）から11月3日（火・祝）まで開催します。期間中は、17品種70万株のコスモスのお花が園内に広がります。

9月中旬から10月上旬にかけては、北駐車場近くの「花巡りの丘」に、オレンジや黄色の「キバナコスモス」が見ごろを迎え、一面絨毯のように広がります。また、10月上旬から10月下旬にかけては、「ダブルクリック」や「キャンパスシリーズ（イエロー）」やピンク、赤、白の「センセーション」などが中央駐車場から近い「花竜の道」や「青竜の谷」にて、見ごろを迎え秋の風物詩としてお楽しみいただけます。期間中は、日祭日を中心に、コスモスにちなんだイベントを開催します。

10月11日（日）には満濃池やコスモスを見ながら楽しめる「満濃池湖畔ウォーク」を開催します。さらに翌週の10月18日（日）には、パワーショベルやパトカーなどが大集合する「はたらく車！フェスティバル2015」を開催します。

10月25日（日）は地元の伝統芸能披露やステージショーのほか、抽選会や特産物販売などが行われる「かりんまつり」や地元での文化活動を紹介する「まんのう町文化祭」を開催します。

その他、週末を中心に各種体験教室やハッピーハロウィーン、B級グルメ等、多くのイベントを行っております。

皆様、ぜひ、国営讃岐まんのう公園の『コスモスフェスタ』にご来園ください。お待ちしております。

※10月4日（日）、10月25日（日）は、無料入園日です。

（各日とも駐車料金が別途必要となります。）

※季節の花情報や旬のイベント情報については、国営讃岐まんのう公園ホームページでご確認ください。（<http://www.mannoukouen.go.jp/>）

いきいき四国－10月配信版.txt

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまで
お寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

***** 「いきいき四国通信」事務局 *****
「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局
までご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】石井（内3126）、仙波（内3176）
〒760-8554 高松市サンポート3番33号
電話(087)851-8061/FAX(087)811-8408
<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》